

## 「衛星地球観測の将来計画」

【主催】:一般社団法人日本写真測量学会、  
一般社団法人日本リモートセンシング学会  
【共催】:一般社団法人地理情報システム学会

- 開催日時:2018年11月16日(金) 10:30~12:30(10:15 受付開始)
- 開催場所:日本科学未来館 7階会議室(コンファレンスルーム天王星)  
〒135-0064 東京都江東区青梅 2-3-6
- アクセス:新交通ゆりかもめ「船の科学館」駅下車徒歩5分、「テレコムセンター」駅下車徒歩4分  
東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」駅下車徒歩15分

### 【趣旨】

現在、世界各国において、地球規模の課題に対応するための重要なビッグデータ源である地球観測衛星の将来計画が活発に検討・立案されている。本年1月には米国の宇宙からの地球科学・応用10年戦略である Decadal Strategy 2018-2027 が発表され、欧州では次世代コペルニクスに関する検討が進んでいる。

我が国においても、関係省庁、JAXA において地球観測衛星の将来計画の検討が進められており、昨年日本学術会議の提言「我が国の地球衛星観測あり方について」が公表され、それを受けてTFリモセン分科会(※)が地球観測グランドデザインを策定するとともに衛星地球観測ミッション公募を行っている。

また、特に米国を中心として民間による小型衛星コンステレーションの構築が進み新たな利用の地平が切り拓かれていることも見逃せない。

本シンポジウムでは我が国の衛星地球観測が進むべき方向についての今後の議論の一助とすべくこれら世界的な動向を俯瞰することを目指す。

※今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合リモートセンシング分科会

### 【プログラム(予定)】

(題目は仮題、敬称略)

- 10:30-10:35 「趣旨説明」 (一財) リモート・センシング技術センター 福田徹
- 10:35-10:55 「JAXA の地球観測衛星とその利用計画」  
宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門衛星利用運用センター センター長 内藤一郎
- 10:55-11:15 「NASA Earth Science Division Decadal Implementation Overview」  
NASA アジア担当代表 ガーヴィー マッキントッシュ
- 11:15-11:35 「欧州コペルニクスの動向」  
(一財) 宇宙システム開発利用推進機構利用技術本部利用研究部 部長 立川哲史
- 11:35-11:55 「超小型衛星 Planet の利用状況と今後の展望」  
(株)衛星ネットワーク地球観測衛星プロジェクト 主幹 澁谷 恵
- 11:55-12:15 「衛星地球観測ミッション公募について」  
千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 准教授 本多嘉明
- 12:15-12:30 「総括」 東京大学 先端科学技術研究センター 教授 岩崎 晃

以上